

# 法人市民税の税率改正のお知らせ

市では、昨年4月から都市計画税を廃止し、その代替財源として、固定資産税・市民税(個人・法人)の税率を改正しています。

このうち、法人市民税は、税率がすべて制限税率となり、

法人区分		改正前	改正後
資本金等の額が1千万円以下	法人税額400万円以下	12.3%	一律14.7%
	法人税額400万円超	13.5%	
資本金等の額が1千万円超1億円以下			

※資本金等の額が1億円超の法人は、既に制限税率を適用しています。

## 〈均等割(改正箇所のみ抜粋)〉

法人区分	従業員数	改正前	改正後
資本金等の額が1千万円以下	50人以下	50,000円	60,000円
	50人超	120,000円	144,000円
資本金等の額が1千万円超1億円以下	50人以下	130,000円	156,000円

※人格のない社団など、これまで標準税率を適用していたものについても均等割は60,000円になります。

※上記の表以外の法人は、既に制限税率を適用しています。

平成22年4月1日以降に終了する事業年度から適用となりますので、申告の際は、適用する税率に注意ください。改正後の税率は、次のとおりです。

《問合せ》税務課市民税係  
☎21-9045

## 都市計画マスタープラン「地区構想」の策定に向けて⑤ 将来像「古より但馬のまほろば日高」



市では、今年度から、小学校区程度のまとまりのある範囲を対象に、市民と行政が協働してまちづくりの指針となる都市計画マスタープラン「地区構想」の策定に向けて、取り組みを進めています。

最初に取り組んでいる「日高地区」の取組みについて、2カ月に1回、シリーズでお知らせします。

《問合せ》都市整備課計画整備係 ☎23-1712

「日高地区まちづくり会議」素案を策定します。

●まちづくりの方針(案)の主なもの

「日高地区まちづくり会議」が、発足してから、11カ月が経ちました。

・計画的な土地利用を図ろう。  
・地域拠点にふさわしい市街地を形成しよう。

この将来像の意味は、日高地区は古来、但馬の中心で、豊かな自然環境や歴史・文化などに恵まれた、とても住みやすい地区でもあり、将来に渡って住み続けたいと思える地区であり続けたいという思いを込めています。

・防災活動を推進しよう。  
・山地災害・水害を減らそう。  
・安全・安心な道路環境を整えよう。

現在、この将来像を実現すべく、都市計画に関する「まちづくりの方針」を検討しています。

・地区の個性を活かし、既存施設の有効活用をしよう。  
・円山川・稲葉川の整備を進めよう。

今後、このまちづくりの方針を取りまとめ、「地区構想」を進めよう。

・内水対策を進めよう。  
・但馬国府・国分寺館など施設利用が増える工夫をしよう。

針を取りまとめ、「地区構想」を進めよう。

・自然豊かな地区づくりを推進しよう。

・防犯対策の取組みを推進しよう。  
・田園景観を保全しよう。  
・質の高い住宅地を形成しよう。

■「日高地区まちづくり会議」の活動経過

1月21日 第8回日高地区まちづくり会議  
2月19日 第9回日高地区まちづくり会議  
2月19日 第9回日高地区まちづくり会議  
2月19日 第9回日高地区まちづくり会議  
2月19日 第9回日高地区まちづくり会議



▲第8回まちづくり会議



▲第9回まちづくり会議



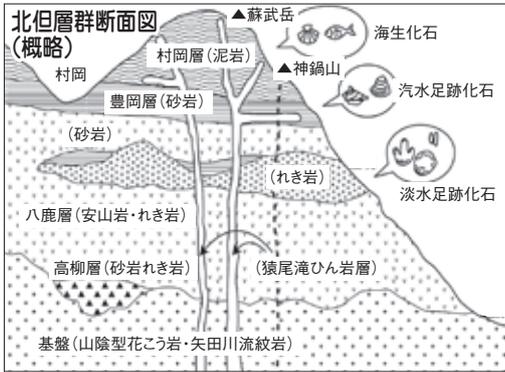
目指せ! 山陰海岸ジオパーク

シリーズ16

足跡化石が見つかる地層

市では、京都府・兵庫県・鳥取県の民間団体や行政機関と連携し、竹野海岸、日和山、玄武洞公園などの山陰海岸国立公園や神鍋高原などを中心としたエリアを「山陰海岸ジオパーク」として、世界ジオパークへの認定を目指しています。このジオパークについて、市のジオパーク普及啓発専門員(北但層群化石研究会代表)の三木武行が、シリーズで紹介します。

《問合せ》観光課 ☎21-9016



先月、下陰でサイの仲間の足跡化石が発見され、テレビ・新聞各社で、放映・掲載されました。足跡化石が見つかる地層はどのような特徴があるのでしょうか？

北但馬に分布する地層は、北但層群と呼ばれ、図のように古い順に、高柳層・八鹿層・豊岡層・村岡層に分類されています。

これまで但馬各地で見つかったゾウやサイの仲間の足跡化石は、次のような八鹿層の上部から産出しています。

高柳層・八鹿層は、日本海形成の活動の始まるころ、火山活動と共に大陸が割れ始め、その低地に堆積した火山岩や



▲湖沼を示す化石・タニシ(左)とイシガイ(市内ほか)

角れき岩・砂岩・泥岩・凝灰岩でできています。

そのれき岩層の上に部分的に堆積した砂岩泥岩層から但馬地域各地の足跡化石が見つかっているのです。同時に、木の葉の化石・立木のまま化石になった木の株・タニシ・イシガイなど淡水を示す化石が見つかっています。

これらのことから、湖沼のほとりの木立の中を多くの動物たちが歩き回っていた様子を想像することができます。

竹野で見つかったゾウの歯は、ステゴプロフォドンという約2000万年〜1800万年前の大陸のゾウのものであったことが分かりました。

このころはまだ日本列島や日本海はなく、日本は大陸の一部だったと考えられます。

教えて「ぢやん」



●豊岡にも恐竜はいたの？

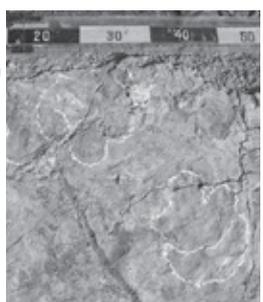
福井県や丹波市で恐竜の化石が発見されていることは知っているかな？

大型の動物の行動範囲から見ると、市内にも恐竜がいた可能性は大いにある。でも、今までにその証拠は発見されていないんだ。

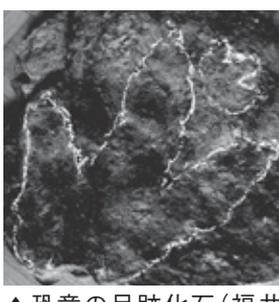
その理由は、市内には恐竜の生きていた時代(1億年ほど昔)の堆積岩(土や砂がたまってできた石)がないからだ。市内のその時代の石は、花崗岩といって溶岩が地下深くで固まった石しかないので、こんな石には化石は含まれないからね。

でも、そのことが恐竜がいなかったという証拠にはならないから、市内に恐竜がいたかいなかったかは分からないんだ。

分からないことも多いんだ!



▲サイ類の足跡化石(下陰)



▲恐竜の足跡化石(福井県福井市・写真提供:安野敏勝さん)

あったか、平野部にあっても、その後の大地の活動により、たまった土や石が削り取られてしまったのかもしれない。

どちらにしても昔の地球のことは分からないことが多いんだ。これから研究できることがたくさんあって、研究者にとっては楽しみでもあるね。

みんなが大きくなって研究してくれることを期待しておろぞ。